

令和7年度 高等部 教育計画

生徒一人一人が自立できるように、中学部までの積み重ねを生かし、生徒の障害の実態や発達に応じた、資質・能力の伸張を図り、豊かに生きる力の獲得のために以下の目標をおく。

1 教育目標

(1) 準ずる教育課程

- ・自分の身体について自己管理を行い、健康・安全な生活を送る。
- ・基礎・基本を重視し、習得した知識と技術を様々な場面で活用できる力を高める。
- ・豊かな人間関係を築き、表現力や社会性等の基本的なコミュニケーションを確立する。
- ・集団の中で自分の立場や役割を理解し、主体的に活動する力を身に付ける。

(2) 知的障害を併せ有する生徒の教育課程

- ・自分の身体について知り、健康・安全な生活を送る。
- ・基礎・基本を重視し、習得した知識と技術を様々な場面で活用できる力を付ける。
- ・豊かな人間性を築き、表現力や社会性等の基本的なコミュニケーションの力を伸長する。
- ・体験活動を通して、興味・関心を高め、地域・社会で生きる力を培うとともに、余暇活動を充実させる。

(3) 自立活動を主とする教育課程

- ・生活リズムや生活習慣を整え、健康・安全な生活を送る。
- ・繰り返しの活動を行い、見通しをもち、身に付けたことを生活の中で生かす力を伸ばす。
- ・様々な人々とふれあい、豊かな感性・表現力を育て、個々に応じたコミュニケーションの力を伸長させる。
- ・体験活動を通して、興味・関心を高め、地域・社会で生きる力を培うとともに、余暇活動を充実させる。

2 基本方針

- (1) 青年期にある生徒たちの心身の状態を十分に把握・理解し、適切な指導・支援を行う。また、障害の進行・重度化に伴う心身の状態の変化にきめ細かに対応する。
- (2) 個に応じた学習は、本校の小学部・中学部あるいはそれぞれの出身小学校・中学校、小学部・中学部との一貫性を考慮しながら、卒業後の生活に生かせるよう、内容その他を精選していく。
- (3) 学習全体を通して、個々の課題に応じて自立をねらうものとする。自己選択や決定する力を伸ばすため、指導（学習）内容や評価の充実を図り、よりよい学習形態・教材教具などの工夫をしていく。
- (4) 卒業後の社会生活を見通し、集団の中での自己のあり方を考え、同時に他者に対する配慮ができるよう、指導・支援を行う。
- (5) キャリア教育及び進路指導は、広い意味でのライフスタイルの設計援助ととらえ、学習活動全般を通して行っていく。

3 学習指導（学習形態）

(1) 学級での指導

- ・発達の課題に応じてきめ細かい指導を行う。
- ・朝の会、帰りの会を行う。

(2) 学年での指導

- ・ホームルーム活動や給食指導（摂食指導）及び一部の行事などの時間の指導にあたる。
- ・学年の生徒全員が協力して物事に取り組む機会の場合とし、実態に応じて自分たちで企画・実行をし、様々な活動を楽しむ力を育てる。

(3) グループでの指導

- ・生徒の課題に合わせて、学習するグループを編成している。複数の学年の生徒と一緒に学習することから、コミュニケーションを大切に指導する。

(4) 学習グループ編成

生徒の課題に応じて、以下の学習グループを編成している。

- ・ 自立活動を主とする教育課程… 1・2・3グループ
- ・ 知的障害を併せ有する生徒の教育課程… 4・5・6グループ
- ・ 準ずる教育課程… 7グループ

人数に応じてグループを合同にして学習する年度や、教科を設定することもある。

4 特色ある学習

(1) 交流教育

都立大泉桜高等学校、新座総合技術高等学校と三校合同で夏季休業中に直接交流を行う。また、学年ホームルームもしくはグループ授業で直接交流を行う。

(2) キャリア教育及び進路に関する学習

卒業後の豊かな生活を実現するため、学級活動、グループ学習、特別活動の他、日常的な生活指導を含めた学校生活全体において、社会参加への意欲を高め、コミュニケーション力をはじめとする技術や態度の育成を図る指導をする。また、施設見学、体験実習、現場実習を通して、卒業後の生活の在り方を具体的に考えられるようにする。

(3) 学部集会

新入生歓迎会、スポーツ集会、音楽集会、卒業生を送る会などの内容で、高等部全体で集会等を行う。各学年で担当を決めて、企画・進行を生徒が積極的に進められるようにする。また学部全体で行う進路学習として、高3実習壮行会・報告会、高2体験実習壮行会・報告会等を行う。

(4) 部活動

前期は東京都障害者スポーツ大会およびパラスポーツ交流大会（ボッチャ部門）、後期はハンドサッカー大会に向けての練習と大会本番を部活動に位置付けて取り組む。